様式３

学　位　論　文　要　旨

研究題目

Physical function and health-related quality of life in the convalescent phase in surgically treated patients with malignant pleural mesothelioma

（悪性胸膜中皮腫術後患者の回復期における身体運動機能と健康関連 QOL の関係）

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学　専攻　　高次神経制御　系

リハビリテーション科　学（指導教授　道免　和久）

氏　名　田中　隆史

［背景］

先行研究では，肺がん患者は術後に肺機能や運動能力が低下すると報告されている．しかしながら，悪性胸膜中皮腫（malignant pleural mesothelioma: MPM）患者の手術後維持期における身体運動機能と健康関連 QOL（Health Related Quality of Life: HRQOL）の関係については詳細に検討されていない．本研究では，外科的治療として胸膜切除／肺剥皮術（pleurectomy/decortication: P/D）を施行した MPM 患者の術後維持期における身体運動機能と HRQOL を評価しその関係を検討することを目的とした．

［方法］

本研究では，2014 年 9 月から 2016 年 8 月に，当院呼吸器外科で P/D を受けた男性 MPM 患者 16 名を対象とした．運動機能として握力と膝伸展筋力，6 分間歩行距離（6MWD），呼吸機能として努力性肺活量（FVC）と 1 秒量（FEV1）を評価した．HRQOL は，Short Form Health Survey（SF-36）を用いて評価した．評価は，術前，術後退院時，術後 1 年目に行った．統計学的分析は，各評価値の平均の差は，反復測定による分散分析を用いて検討し，各評価値の変化量の関係はピアソンの相関係数を用いて検討した．対象者には，研究実施について十分に説明した上で書面にて同意を得た．

［結果］

術後 1 年間で，6MWD，FVC，FEV1 の値は，術後退院時に比べ有意に改善した（いずれも $P<0.05$）．さらに，SF-36 の 8 つの項目のうち，身体機能，体の痛み，全体的健康感，活力，社会生活機能，心の健康の 6 項目の値が，術後 1 年で術後退院時より有意に改善した（すべて $P<0.05$）．また，6MWD，FVC，FEV1 は，活力，心の健康，身体的機能と相関していた（いずれも $P<0.05$）．

［結論］

P/D を実施した MPM 患者は，維持期において術後退院時と比較して身体機能および HRQOL の改善が認められた．リハビリテーション専門職および他の医療スタッフは，これらの知見に留意すべきであり，今回の結果は，MPM 患者の回復期および維持期においての疾患に特化したリハビリテーションプログラム開発の一助となる可能性がある．